

18歳選挙権時代の鍵は 地域の政治にあり @京都市会

NPO法人YouthCreate
原田謙介

1. 自己紹介
2. 「若者と政治をつなぐ」問題意識の芽生え
3. NPO法人YouthCreateの概要と着目点と具体例
4. 若者の参画を増やす18歳選挙権時代の意識と実践
5. 若者の参画を進めるための視点とアクション
6. 最後に

1. 自己紹介

原田 謙介(30歳)

NPO法人YouthCreate代表

岡山県出身

愛媛県愛光高校卒,東京大学卒



グリーンバード中野チーム代表

内閣府子ども・若者育成支援推進点検・評価会議委員

2014年開催EU評議会主催 World Forum for democracy

内閣府青年リーダー育成プログラム青少年分野ドイツ派遣(2014年度)

文科省・総務省

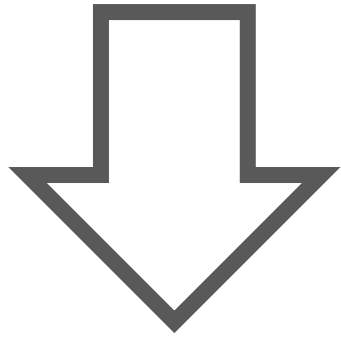
「政治や選挙等に関する高校生向け副教材」作成委員

岡山大学講師 「実践デモクラティックラーニング」

中野区社会福祉協議会評議員

2. 「若者と政治をつなぐ」問題意識の芽生え

大学入学後の 国会議員事務所でのインターン



若者と政治は
共に“未来”を考えているのに、
互いのことをしらなさすぎる。

互いを知る機会があまりに少ない



今の日本において
若年層と政治をつなげる必要性

構造を変える必要

政治は「社会を良くしていく動き」

若者は「社会を作り、担う新しい力」

活動内容

これまでの若者と政治をつなぐ活動



ivote
20代の投票率向上に向けて

2008年～2011年
学生団体ivote代表

インターネット選挙運動解禁へ

ONE VOICE
CAMPAIGN

ネットで声を集めて
政治を変えていく！

NO VOICE → ONE VOICE

2012年～2013年
OneVoiceCampaign発起人

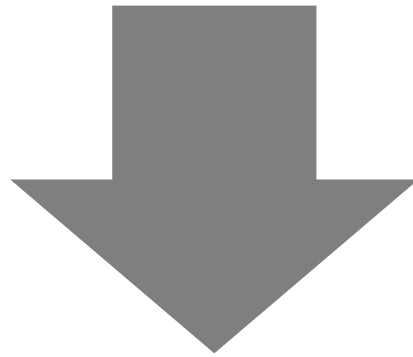


YouthCreate

2013年～
NPO法人YouthCreate代表

気持ちの変化

投票率向上！！国政選挙がカギだ！！



選挙以外

国政以外

3.NPO法人YouthCreateの 概要と着目点と具体例

NPO法人YouthCreate

若者と政治をつなぐ場づくり

2012年設立

拠点：東京都中野区

活動地域：全国

スタッフ2名

学生・社会人ボランティア約10名

YouthCreateのミッション

1. 子ども・若者と政治が接する場を増やす
2. 子ども・若者が政治への知識を高める場を作る
3. 若者の政治参画を進める



1. 選挙からスタートしない方法
2. 街のこと、地域の政治に注目
3. 難しさ、真面目さだけではない
4. 政治との双方向性

選挙からスタートしない方法

街→政治→選挙

選挙以外にも政治に参画できる

選挙の時以外も政治に関わる



「選挙に行こう」とは言わない

街のこと、地域の政治に注目

国政だけが政治ではない
街の政治・議員・できごと
身近さ、自分事、千差万別



自分事だから参画する

難しさ、真面目さだけではない

楽しさ、意外性、人間臭さ

完璧な理解を求めない

好きなもの、分野との関係性



政治のイメージをどう崩すか

政治との双方向性

知るだけ、学ぶだけではない
声を届ける。疑問をぶつける。
決して「意見が通る」ではない



政治・行政側との関係性

4.

若者の参画を増やす 18歳選挙権時代の意識と実践

2016年夏の参議院選挙より

18歳選挙権時代へ

「選挙権が下がった年」

or

「若者の参画が始まった年」

下から目線で若者を巻き込む

「権利をプレゼントした」
ではない。

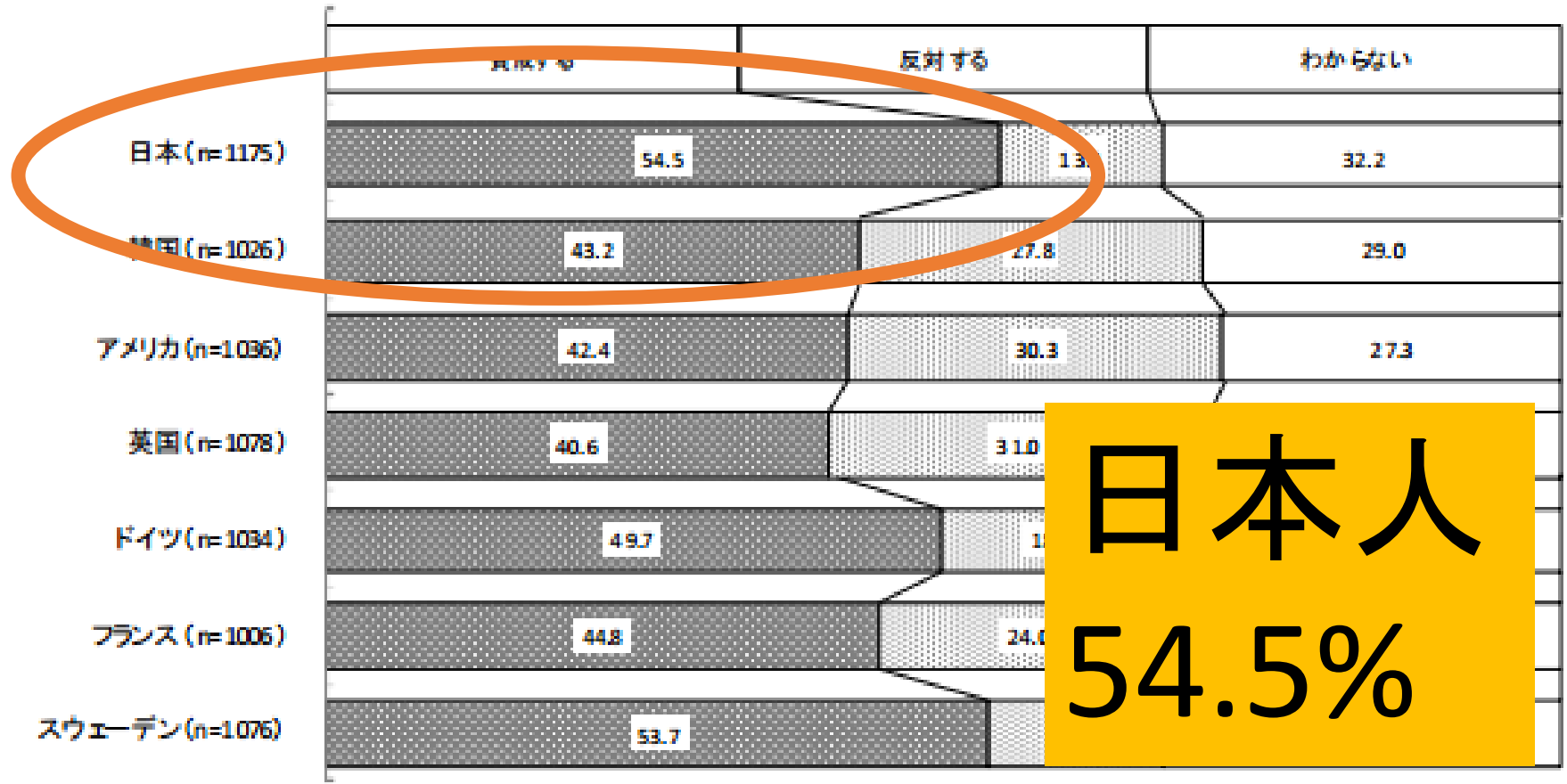
「若者の力」を必要としている

「社会全体の変化」

自国のために 役に立つと思うようなことをしたい

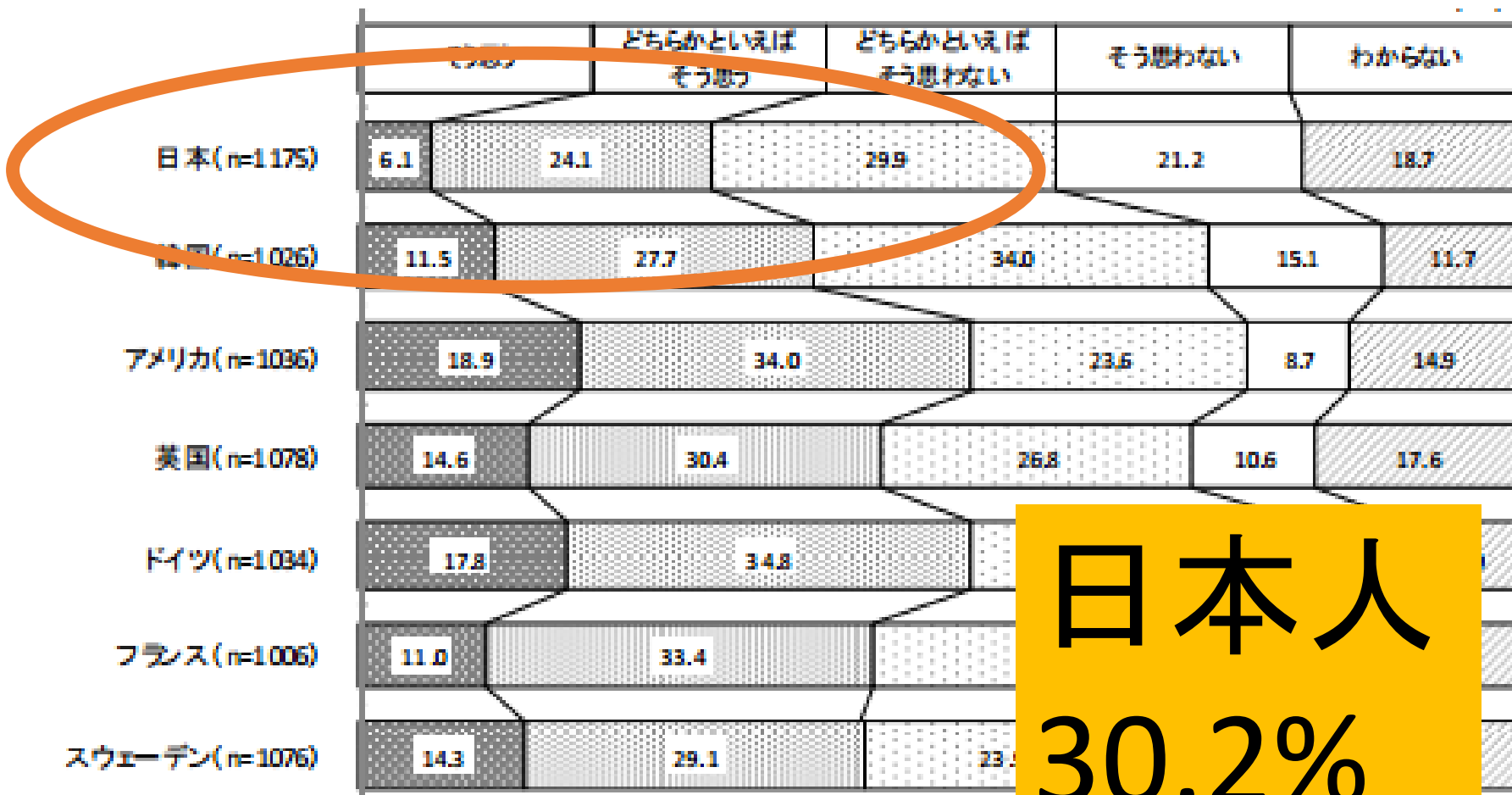
平成25年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査

(70)



私の参加により、変えてほしい社会現象が 少し変えられるかもしれない

平成25年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査



若者の約半数が「投票は自由」 高齢者4割「義務」 全国調査

ツイート 149

チェック

おすすめ 181

G+ 1

2015年10月25日

二十代の若者の約半数が投票は「個人の自由」と考えていることが、総務省関連の財団法人「明るい選挙推進協会」の全国調査で分かった。年齢が高くなると「自由」は減り、「国民の義務」とのとらえ方が増加。投票に対する若者の消極的な姿勢が浮き彫りになっている。

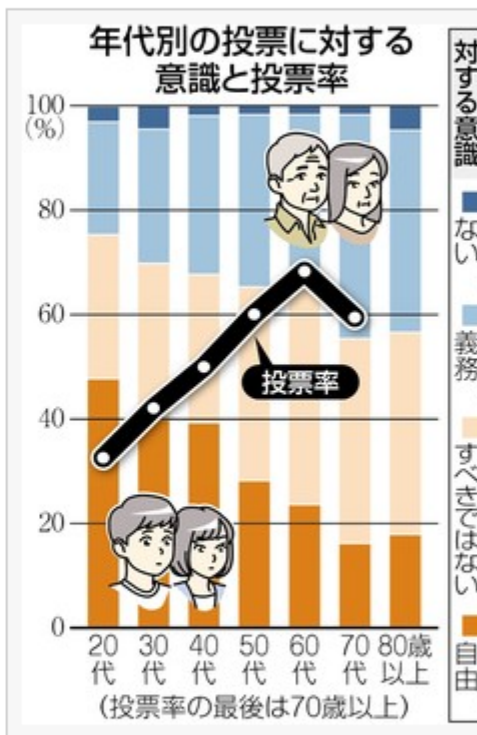
二〇一四年十二月の衆院選に関する調査で、今年三～四月に全国の有権者三千人を対象に郵送で実施した投票に関する調査で、自身の考えに近いものを「国民の義務」「権利が義務を越える（権利優先）」

若者の約半数が「投票は自由」 高齢者4割「義務」 全国調査

七十代では順位が逆転。「義務」が42・9%と最も多く、「権利」は39・2%、「自由」は16・2%だった。八十歳以上も「義務」38・7%で「権利」と同率で最多。「自由」は17・9%だった。

年代による意識の違いについて、日本大の岩井奉信（ともあき）教授（政治学）は「高齢者は権利と義務は表裏一体で、投票にいかねばいけないと思っている。一方、若者は投票は『権利』『義務』ではなく、罰則もないので行くかどうかは個人に委ねられていると考えているようだ」と指摘する。

その上で「投票しないことで失うものがあることや、投票で何かが変わるといった主権者教育が、若者には必要ではないか。そうしないと、投票するかどうかはその時の気分次第になってしまう」と警鐘を鳴らしている。（安藤美由紀）



政治と社会に関する若者意識調査(NHK)

D. 政治のことがよくわからない者は投票しない方がいい	
1 そう思う	22.2%
2 どちらかといえばそう思う	30.8%
3 どちらかといえばそうは思わない	24.0%
4 そうは思わない	21.6%
5 無回答	1.4%

全国の18・19歳の国民

学校の現場での対応

- 中学生（義務教育） 大学生なども
- 身近な社会での民主主義（生徒会など）
- 学校という普段のコミュニティ内で話すことの意義

家庭での対応

- 本来議論は中立的にははじまらない。
親の投票先などをきっかけに考える
- 親の投票率の低さ
子供から親への波及が必要

地域での対応

- 全く知られていない地方政治
- 同時に知れば自分事として考えることができる。
- 多世代の街の人と話すことも必要。

5. 若者の参画を進めるための 視点とアクション

若者(18歳)の分類

“若者”とひとまとめにする怖さ
職業、経歴、居住状況などの違い



企画のターゲットをしっかりと絞る必要
“対象の”モデルを設定する

鍵は地域の政治

地域の政治＝日常
しかし、情報が無い状況



地域の政治の情報に触れる
さらには、そもそも地域を知る

投票に限らず若者の参画を進めるきっかけに

「若者の力を社会に活かす地域」
になったといわれる転換を

民主主義の活性化のため

積極的にうってでる

広報誌を読んでもらう！？

「議会」という組織で学校に行く！？

様々な地域の若者の集りへ参加！？

若者も一人前の人として対応

しっかりと意見・考えを伝える

彼らが「自分事」だと捉えられる話題なのかどうか

変化を伝える

選挙制度の変化

若者政策の変化



政治は確実に動いている

6. まとめ

最後に

若者の力を引き出す

選挙、政治を学ぶのではない

あなたの考え、想いを伝える

一緒にやりましょう！



広げる・・・HP・Twitter・Facebookページ等で情報発信中
情報の拡散のご協力をお願いします。

使う・・・YouthCreateとの協働イベントを実施しましょう。
講演・ワークショップ等の講師として呼んでください。

強くする・・・寄付やマンスリー会員としてご協力ください。
詳細はHPやYouthCreateメンバーまで

NPO法人YouthCreate 原田謙介

<http://youth-create.jp/>
haraken@youth-create.jp

070-5525-9800